当園で作出したベゴニアの交雑種について

今本　忠

ベゴニア属は，種間交雑が比較的容易であり，毎年新品種が多数発表されているが，球根ベゴニアを主体としたものは国内では少ない。球根ベゴニアは，花が豪華艶麗であるが，一般に西日本の気候に合わず，栽培が困難である。より栽培しやすい品種の作出の一貫として，葉の美しさと変化に富みかつ，栽培も容易な根茎性ベゴニアとの交雑により両種の優良形質を兼ねそなえた新品種の作出を試みているので，その経過の一部を報告する。

交雑の経過

第１回目の交配は，1979年３月に３品種を用いて正逆交配を行った。その結果，球根ベゴニアを母株とした場合の１例（tubenhybrida × Chantilly Lace）のみ稔性種子を得ることができたが，根茎性ベゴニアを母株とした場合種子は得られなかった。この種子をまき，育苗，選抜の結果，残ったのは１個体だけで，この株は，同年12月中旬に開花，その後半年以上も咲き続けた。

1982年２月には５品種の正逆交配を試み，３品種から種子を得て育苗，選抜を重ね，結局１品種（tubenhybrida × *hydrocotylifolia*）２個体を残した。

雑種F_1の特性

球根ベゴニア×シャンティー　レース（交配番号７９０５３）

生育は旺盛で節間が詰り，株張りも良いが，茎が細いため吊り鉢仕立てにするか，支柱を立てる必要がある。花色は紅色，八重または半八重である。花あがりが非常によく，咲き始めると各葉腋から次々と花をつけ，また暑さにも比較的強く花振いもしないが，ただ栽培または高温により雌ずいの奇形が生じることがある。四季咲き性で，周年開花する。葉は，ハート形で先端が尖がり，縁に細かな鋸歯があり，成長期には幼葉の縁毛が赤褐色の縁取りとなって美しい。

球根ベゴニア×ヒドロコティリフォーリア（交配番号８２０１０）

1982年２月に交配，３月に播種し，９月に定植，11月に１個体（Ａ株），翌年１月に他の１個体（Ｂ株）が開花した。両個体とも茎が太く直立性で分枝も少ない。花は，Ａ株は，桃色八重または半八重で，花梗が長く葉上５～７㎝で咲き，Ｂ株は白色八重または半八重で，太い花梗が前方に突出して咲く。花及び葉はともに大きく球根ベゴニアに似る。開花期，繁殖法などは現在調査中である。

以上ベゴニア雑種F_1の調査概要の報告を行ったが，当初期待した両種の特徴をよく表わした個体は得られなかった。花葉ともに球根ベゴニアの特徴が表われた個体が多く，今後交配育種を進めるうえで検討を要するが，戻し交雑などを行ってよりすぐれた品種の作出を図りたい。

球根ベゴニア×シャンティーレース

球根ベゴニア×ヒドロコティフォーリア（Ａ株）